

令和7年度 全国学力・学習状況調査の本県の結果と考察

宮崎県教育委員会

1 実施の概要

対象学年・教科等 調査人員	小学校第6学年：国語、算数、理科、質問調査（児童、学校）		9,145人
	中学校第3学年：国語、数学、理科、質問調査（児童、学校）		8,464人
調査対象校	小学校調査：226校 中学校調査：130校		
	対象校 内訳	市町村立小学校〔219校〕・中学校〔118校〕・義務教育学校〔5校〕	
		五ヶ瀬中等教育学校（前期課程）	
		宮崎西高等学校附属中学校	
		都城泉ヶ丘高等学校附属中学校	
		特別支援学校（小学部2校・中学部4校）	

2 調査の結果

現行学習指導要領では、育成を目指す資質・能力が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理されている。2(1)は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」に関わる実施教科の調査結果を、2(2)は「学びに向かう力、人間性等」に関わる児童生徒質問調査結果の一部を表している。

(1) 実施教科の調査結果（都道府県別の平均正答率は、文部科学省が整数値で公表）

教科 〈問題数〉	小学校第 6 学年		
		平均 正答数 (問)	平均 正答率 (%)
国語 〈14問〉	宮 崎	9.2	66
	全 国	9.4	66.8
算数 〈16問〉	宮 崎	8.8	55
	全 国	9.3	58.0
理科 〈17問〉	宮 崎	9.5	56
	全 国	9.7	57.1

教科 〈問題数〉	中学校第 3 学年		
		平均 正答数 (問)	平均 正答率 (%)
国語 〈14問〉	宮 崎	7.1	51
	全 国	7.6	54.3
数学 〈15問〉	宮 崎	6.3	42
	全 国	7.2	48.3

中学校理科は、同一問題による調査ではないため、基準を500としたIRTスコアで表示

理科 〈26問〉	宮 崎	472
	全 国	503

(2) 児童生徒質問調査の結果（一部） 〈宮崎及び全国の数値は、肯定的な回答の割合を示す：単位（％）〉

質問項目		小学校		中学校	
		宮崎	全国	宮崎	全国
①	自分には、よいところがあると思いますか。	87	86.9	87.6	86.2
②	将来の夢や目標を持っていますか。	84.9	83.1	68.8	67.5
③	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	83.1	81.3	78.4	75.3
④	これまで、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	80.4	80.3	73.8	77.7
⑤	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	84.5	84.9	82.3	84.7
⑥	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	81.1	79.4	69.7	73.4

3 本県の特徴

- 実施教科の調査結果においては、小学校・中学校の平均正答数及びIRT平均スコアでみると、実施された全ての教科で全国平均との差が見られる。
- 児童生徒質問調査の結果においては、①～③の自己肯定や自己実現等に関する内容の質問に肯定的な回答をした割合が、全国平均を上回っている。特に、「自分にはよいところがあると思いますか」という質問については、昨年度よりも小学校が2.2ポイント、中学校が3ポイント高い数値となっている。
- ④～⑥の主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する内容の質問においては、小学校では全国平均とほぼ同じ傾向である。一方、中学校では、全国平均を2～4％程度下回る結果となった。
- 学校質問紙調査において④、⑤と同内容の質問に、「そう思う・取り組んでいる」と回答した学校の実施教科調査の平均正答率は、全国平均を上回る結果となった。

4 考察

県教育委員会では、子どもたちが将来よりよい未来や人生を切り拓いていくために、市町村教育委員会と連携を図りながら、今求められる資質・能力をバランスよく育む教育を推進している。

実施教科の調査結果においては、教科によって差はあるものの、実施された全ての教科で全国平均より下回る結果であった。今後、問題調査の解答状況や無解答率といった課題が見られる項目にも着目して詳細な分析を重ね、授業改善に生かしていくことが必要であると考え。

児童生徒質問調査の結果においては、本県の子どもたちの自己肯定感や地域・社会に貢献しようとする意識は依然として高く、持続可能な社会の担い手としての資質・能力が育まれていることがわかる。しかしながら、主体的・対話的で深い学びの視点に関する質問においては、昨年度より伸びている項目がある一方で、全国平均を下回る項目もあった。また、学校質問紙調査と実施教科調査結果のクロス集計から、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいる学校ほど、教科調査においても全国平均を上回る結果となった。

このことから現在、県教育委員会は、各教科ごとにチームを編成し教科指導の在り方を研究し、県内全域に広めているところである。また、中学校の授業改善につなげるため、県内中学校を対象とした研究指定校による研究・実証も行っている。今後もこのような取組を更に充実させ、教師主導の授業から子ども主体の学びたい授業への転換を図り、学びに向かう力を育む「ひなたの学び」に示される子どもの姿の具現化に取り組み、今求められる資質・能力の育成を図っていきたい。

IRTに基づく調査のイメージ

視力検査を例としたイメージ

※イメージを表すことを目的として作成したため、示された7つのランドルト環の大きさ（難しさ）がAさんとBさんで異なっている。

	素点方式（正答数・正答率）	IRT方式																																
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環（C） を見ることができたか	どの大きさのランドルト環（C） を安定的に見ることができたか																																
得点(スコア)の例	<table><tr><td>0.1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.3</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.4</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 5問/7問 (正答率71%) > 4問/7問 (正答率57%)	0.1				0.2				0.3				0.4				<table><tr><td>0.1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.3</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.4</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 0.2 < 0.3	0.1				0.2				0.3				0.4			
0.1																																		
0.2																																		
0.3																																		
0.4																																		
0.1																																		
0.2																																		
0.3																																		
0.4																																		

素点方式の場合は、Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなります。

IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア（視力）が高くなります。